



→十月上旬、珍しいサツマイモの花が咲きました。
下旬、大きなイモもできたものの数は少なめでした。

朝寒に集う子の声のびやかに

「山の学習」といえば、他校では基本的に五年生の行事である。しかし本校の場合、四、五年生が合同で実施する。四年生は初日の飯ごう炊飯から野外活動、キャンプファイヤーまでを体験する。その後、五年生のみが宿泊し、二日目の活動を行う。

今年度の山の学習のテーマは、「みんなで協力してどんなことにも挑戦し、友情を深めよう」である。このテーマは五年生が考えた。「どんなことにも」が今年の五年生らしくてよいと思った。「どんなこと」には、好きなことややりたいことだけでなく、苦手なことや、できればやりたくないこと、やらなくてすむことさえ含まれる。昨年度の山の学習の飯ごう炊飯とその片付けで、当時の五年生の後姿を目で追っていた四年生。「それは自分の担当じゃない」と取り合わなかった一場面、皆で同じ作業に終始していた姿など、断片的な記憶が浮かんでくる。



【力を合わせ、大成功した飯ごう炊飯】

十月二十四日、炊飯の時間がやってきた。メニューは昨年と同じカレーである。活動開始とともに各自が動き出す。疑問が浮かぶと自分でしおりを見て確認し、質問に来る子がいない。そして、「〇〇ちゃんはくして。私はくしておくから。」「先にくしておくほうがいいんじゃない。」「くしている間にくしよう。」など、四年生に指示を出したり先を見て行動を促したりする五年生の声が聞こえてきた。黙って素早く行動に移す姿も随所で見られた。去年からの変貌に感心していると、五年生からこんな言葉が返ってきた。「去年、〇〇ちゃん（現六年生）がすごかったから。」「△△君（現六年生）が早く食べて片付けをしていたから、僕もやろうと思って。」今年度四月の抱負で、「山の学習で四年生にしっかり役割などを教えてあげる。」と決めていた子もいる。五年生の心には去年の先輩の姿がしっかりと刻まれており、今度は自分の番だという自覚が一年かけてでき上っていたのだ。そして、今年の四年生の心にも、五年生の姿は刻まれたことだろう。

山の学習二日目の朝、少年自然の家の職員さんに挨拶をした子供たち。その後の集いで堂々とした典礼、きびきびとした旗揚げ、整列の姿勢を見ていた職員さんが、「常磐東小か。素晴らしい。」と言って何度も拍手を送ってくださった。奉仕活動の掃除では、「来た時よりも美しく」を短時間で広範囲に実現した。

山の学習で学んだ、先を見た準備と行動、周りへの心配りと協力、自由に伴う責任、感謝の気持ちとそれを表す態度……。『どんなことにも』進んで挑戦する心地よさを忘れず、今後も自立に向けて歩みを進めてほしい。



【労をいとわず取り組んだ炊飯の片付け】